

第9回 檀原市総合政策審議会

日時：令和4年2月28日（月）午後1時30分～

場所：Web会議

出席者

- 委員：東委員、飯田委員、大城委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、高山委員、土井委員、中澤委員、久委員、平田委員、前川委員、中谷委員、榊谷委員
- 市：亀田市長、深田教育長、山崎企画部長、森脇総務部長、松村総務部副部長
- 事務局：戸田企画部副部長兼企画政策課長、池田企画政策課長補佐、谷本統括調整員、友井係長、日野主査、大前主査

1. 開会

2. 市長挨拶

亀田市長

檀原市長の亀田でございます。本日は、公私ともご多忙のなか、檀原市総合政策審議会にご出席を賜りまして心から御礼を申し上げたいと思います。また委員の皆様方におかれましては、平素から檀原市の行政運営に多大なご尽力を賜っておりますことをこの場をお借りして重ねて厚く御礼を申し上げます。今回はオンラインによる開催ということで、委員の皆様方にはご不便をおかけすることもあるかと存じますが、何卒よろしく願いいたします。また、新しく委員にご就任いただきました中谷委員におかれましては、今後ともよろしく願い申し上げます。

さて、前回の審議会におきましては檀原市第4次総合計画の進行管理及び第2期檀原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証についてご議論いただきましたが、今回はその内容をより具体的に議論していただくところになります。令和4年度からは、第4次総合計画の進行管理については行政評価として、第2期総合戦略の効果検証とあわせまして本審議会におきましてご審議を賜りたいと考えております。檀原市にとりましては最上位計画と位置付けられています、この総合計画で進行管理、進捗管理を含めまして檀原市のまちづくりにさらなるご協力を賜りますように心からお願いを申し上げながら、甚だ簡単ではございますが、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。委員の皆様方どうぞよろしく願い申し上げます。

3. 新委員紹介

事務局より観光政策分野で新たに就任した中谷委員を紹介。

4. 議事

檀原市第4次総合計画前期基本計画の進行管理及び第2期檀原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

事務局

それではただいまから議事に入ります。会長に進行をお願いしたいと思います。久会長よろしくお願いたします。

久会長

それでは私の方で議事を進めてまいりたいと思います。すでにオンラインの会議に慣れている方も多くなってきているとは思いますが、橿原市の総合政策審議会としては初めてリモートで開催しますので、いろいろ起こるかもしれませんが臨機応変に対応していただければと思います。

まず一つ目の議事に入りたいと思います。橿原市第4次総合計画の進行管理及び第2期橿原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について、まずは事務局の方から説明してください。

事務局

(資料説明)

久会長

ありがとうございます。今日の話は抽象的なところが多いので、議論しづらいところがあるかと思いますが、本日大きく方向性を決めていただきましたら、それに沿って各担当部署の方々にシートを書いていただきます。それが集まった段階でもう一度総会を開催し、部会、そして総会へ具体的にどのように評価を進めていくのかということを中心に詳細にご説明いただきたいと思っております。今のご説明に何かご質問やご意見はございますか。

大城委員

効果検証のフローのところ具体的にイメージしにくいところがあったので、そこについて説明を補足していただきたいと思います。第10回の総合政策審議会で委員用評価シートの依頼をして7月12日、13日の部会中に回収とあります。この第10回の審議会で依頼されて、次の部会中に回収ということですが、これはそれまでに十分に評価をできる日程なのでしょうか。また、どのような情報をもとに評価をしたらよいかのかわかりにくかったです。部会中にこちらがそれぞれの担当部課から説明をいただいて、その際にもその情報をもとに評価を完成させるイメージでよいかということを確認したいです。

事務局

まずどのような情報をお渡しするかということで、先ほどのフロー図で言えば、6月末に全体会がございます。ここで総合戦略の効果検証について、全体的に報告書に上がってきたことを評価していただく前に、総合戦略の概要は1回目の全体会のときにお話をさせていただこうと思っております。お渡しする報告書のイメージは、資料4-3の1ページです。KPIと数値目標の達成度がどれくらいかということで数値を記入していきますが、委員の皆様につけていただいたAからEを2ページに記載する全体の評価、基本目標のそれぞれ1から4というふうに反映します。

具体的にどういった内容を評価していったらよいかということですが、4ページをご覧ください。4ページに数値目標、また5ページにKPI、6ページで主な取組みを具体的な取組みに落とし込み、詳細の取組と個別具体的にどのようなことをしてきたかということ的成果とともにお示しします。今後の課題対応をどのようにしていくかをこの報告書にまとめ、この概要を6月末に事務局でご説明をし、その

ときに委員の皆様は資料 3 の表をお渡しします。このそれぞれの報告書を、資料 3 のシートにまとめていますが、これを一つずつ KPI や個別の成果を見ながら、A から E の評価をつけていただきます。部会中では、主に総合計画としての評価についてお話させていただきますが、中には総合戦略にかかわる部分も出てくるかと思えます。その部分は事務局のほうでも意見として拾い上げ、報告書に取りまとめていきたいと考えています。

報告書については、資料 4-3 の 3 ページで総括の下の部分に審議会の意見、個別の内容でしたら 5 ページに審議会の意見、また 6 ページに A から E までの評価の部分が出てきます。2 週間程度で A から E の評価をつけていただくということで、少々タイトなスケジュールになると思いますが、その後の取りまとめも考慮して、このような日程でお願いしたいと思えます。

久会長

これは部会ごとに自分の専門のところを見ていけばよいということでしょうか。全員がすべてを見るのでしょうか。

事務局

効果検証については、全分野について見ていただきたいと考えています。

久会長

かなり大変な作業がこの 2 週間で入ってくるかもしれませんが、先ほどご説明いただいた資料 4-3 の 6 ページのサンプルを中心に見ていただいて、それぞれ効果が出ているかどうかというところで A~E までをつけていただくと、効率的に行うことができるかと思えます。それから KPI が順調に伸びているかどうかということも併せて見ていただくと、判断できるかと思えます。

ちなみに 6 ページを見ていただいたところで、事前に事務局と打合せをしたときに、成果が書けていないというお話をいたしました。これは総合計画の施策シートとも同じ傾向になりますが、6 ページに例として「新キャンパス西側の企業誘致について……」という文章があります。この記載は取組であって、ここでは成果が相談件数になっていますが、本来は誘致促進をしたわけですから、どれだけの企業に来ていただいたのかということまでいって初めて成果になります。そこを担当部署の方にしっかりと書いていただくと我々も評価しやすくなると思えますが、この書きぶりが不十分でしたら、事務局からも説明があったとおり、部会の中で補足説明をいただきながら最終の評価を決めていただくことにもなるかと思えます。まずは 2 週間で全体をざっと評価していただいて、それぞれの部会のなかで情報をもっと欲しいということであれば、そこで聞いていただいた後、最終評価をしていただくことになろうかと思えます。

清水委員

我々が評価する際に、努力を評価するのか、成果を評価するのかは個人で考えればよいのでしょうか。先ほどの取組の件数などは努力の評価ということになると思えますが、そういったことも含めて評価するという姿勢でよいのでしょうか。

久会長

効果検証ですので、頑張っているだけでは高い評価はつけられないだろうとは思っておりまして、ちゃんと成果として出ていて初めて高評価をいただけるのではないかと思います。効果をまず見ていただいて、効果が出ていないときに、先ほどご指摘いただいたように頑張っているのか頑張っていない

のかというところも加味していただきながらコメントを返していただきます。頑張っているけれども成果が出ていなければ、本来は課題のところでも書かれていないといけません、総合的に評価をしていただければ、と思っております。

事務局

事務局より補足いたします。久会長にも読み上げていただきました個別の部分に関しては、できる限り成果の方を評価指標として個別のところにも落とし込んでいきたいと考えています。ただし全て成果では書きにくい部分も出てくるかと思しますので、その部分はアウトプット、つまり活動指標で書かせていただく部分もございますが、できる限り成果指標でと考えております。

飯田委員

資料 1 の 5 ページから 7 ページのフローで、どのシートがどの時点で出てくるのかというところを分かりやすくまとめていただきたいと思います。また効果と成果についてですが、所掌事務の中にはその効果を検証すると書いてありましたが、私の解釈ですと効果というのは目標が最初に定められていて、それに対してどのような状況だったのかというものが効果であって、それを上回った場合に成果というように機械的に考えているところがありますが、そのような認識でよろしいでしょうか。言葉の使い方ははっきりしていただかないと、7 ページにあるようなワークを短時間でこなすのは厳しいのではないかと思います。

もう 1 つ付け加えますと、その効果を評価するという場合にはそれぞれの事業において、その年度の目標がどうなったのかということが明確に書かれていて、それに対する進捗というものが明確に書かれていれば、こちらの方で判断しやすいと思いますが、シートがそのようなつくりになっていないと思います。その点についても補足をお願いします。

事務局

まずシートの方に関して回答いたします。資料 5 がわかりやすいかと思しますので、それをご覧ください。上から順番に議会、総合政策審議会、施策評価、事務事業評価という順番になっています。今回シートを出しておりますのが上から 3 つめの施策評価で、その下の事務事業評価、その下の実施計画、一番下の効果検証の 4 枚のシートを今回資料としてお渡ししています。資料の作成については、施策評価のシートと事務事業評価のシート、効果検証のシートについては同じ時期、4 月下旬から大体一ヶ月程度で作成していただきます。資料 4-2 の実施計画については、既に各課で作成を終わっている段階で、事務局で取りまとめをしている段階です。

効果検証に関しては、それぞれの目標に対して、それぞれ KPI という、これは初期値がいくらで目指す値は何件ということで、資料 4-3 の効果検証報告書 5 ページ、初期値と目指す値ということで、例のグラフのように毎年示していく予定です。個別の部分に関しては、計画時点で立てているのは先ほどの KPI のみで、個別の内容は単年度ごとに推移を追っていくという、その成果となります。

そのため、効果というのは最終的に KPI に反映されて、それが効果的に取組みを行われたのかどうかということも含んでおります。

久会長

成果と効果をどのように使い分けているのかというご質問の趣旨と思います。成果とは、最終どういった結果がでてきたかというところを見ていくのが成果だと思います。効果とは、各事業の結果としてそれが出たかというところを測っていくのが効果の検証だと思います。ひょっとすると出てきた結果が他の要因で出てきているのかもしれない。そういうときは、結果的に成果としては出てきていても事業の効果であるかは疑わしいわけです。そう考えたときに、その成果で最終的に効果が出ているかどうかを測る

が、それだけ見ていって効果にはならない、そういう理解でよいのではないのでしょうか。

飯田委員

いずれにしてもそこをはっきりしていただかないと、部会によってまちまちな評価シートになる気がしますし、先ほど 5 ページを出しておりましたが、KPI で実績値があるのであれば、これが効果の評価だと思います。それは委員が評価しなくても自ずと出てくるものではないのでしょうか。

久会長

KPI というのはいわゆる代表指標ですよ。ですからそれだけではなくて、より総合的に成果を考えていただいて、それに対して効果があったのかどうかということです。

飯田委員

そうするとそれに対する働きかけとかそういった情報がないと、なかなかその評価は難しいと思いますが、その認識は間違っているのでしょうか。何をインプットして何を一つの基準としてどう評価するのかというフローがはっきり見えなくて、成果と効果という言葉境界不明瞭に使用されるので頭に入りにくいです。

久会長

具体的にこういう資料が欲しいとか、こういうシートの作り方をしてほしいということがあれば、事務局の方にご提案していただければと思います。例えば先ほどの総合戦略の報告書をみて我々は、検証作業と言われているのでこういうシートにしてほしいとか、こういう情報があればしやすくなる、というものがありましたらご提案ください。

飯田委員

少なくとも会長が使われている成果と評価の使い方と事務局の使い方とでまだギャップがあるように思いますのでこれをまず埋めていただいて、総合戦略のこの会議で全体に共有していただきたいというのが 1 点です。

作業期間が非常に短いので、機械的に作業をして、今表示されているものから効果を読み取ればよいということであれば短時間でもできると思います。ただそれに対する取組みも考慮して成果を見るのであれば、全然情報がたりません。ですが、これに情報を加えてすべての事業を評価するというだけでは時間がたりません。そのあたりをちゃんと決めて、もう一度作業の流れを明確にさせていただかないと、何をいつまでにどれくらいすればよいのかと皆さん迷ってしまうのではないかと思います。

事務局

資料 4-3 の用紙ですが、これを効果検証の 6 ページと照らし合わせて見れば、ここでの評価の大きなくくりというのは、基本目標 1 の基本的方向 1 は、企業誘致や企業支援を進めるということです。この全体に対しての 1 つの重点施策として、A から E を事細かにというよりも効果検証報告シートを元に、個別具体的な報告書を見ながら行います。A から E を、十分な成果として見られるのか、それとも成果として書かれている内容がほとんど達成されていないのであれば D や E といった評価をするという流れを考えていました。

久会長

この資料 4-3 の 5 ページのところの基本目標 1 の総合分析というものがありますが、そこに先ほど飯田委員がおっしゃったようなことが読み取れる文章を担当課に書いていただいたらよいということですね。ここが総合的に市役所内で評価をした評価内容が現れるので、この文章をしっかり書いていただいて、私たちがしっかり読み込んで評価をしていけば、先ほど飯田委員がおっしゃったような話も良い方向に進むのではないかと思います。先ほどの資料 3 の施策評価シートもそういった書きぶりをしてほしいということを 5 月の説明会の際に担当課に申し上げようと思いますが、まずどういう成果が出てきたのかをイメージしていただき、それに対してどのような施策や事業を行ったから、その結果として成果が出た、というようにシートを書いていただくと、先ほどの成果と効果というものが私たちに伝わりやすくなってくると思います。この事業の効果だということは数値で表せるのであれば数値で表していただいて、こういう数値が出てきているから成果が出てきている、というように私たちは読み取りましたと。そして委員の皆さんいかがでしょうかという、問いかけのような総合分析にさせていただくと、私たちが効率的に評価ができますので、先ほどご指摘をいただいた内容は、総合分析のところをしっかりと書いていただくということでお返しいただくということはいかがでしょうか。

事務局

承知いたしました。

久会長

他はいかがでしょうか。

大城委員

今の話で、資料 4-3 で評価の基準が A から E までありますが、ここも非常に選択しづらい感じがあります。例えば B の「予定通りの成果が得られた」と C の「一定の成果が得られた」がどのように違うのかがイメージしにくいです。このあたりの A から E の評価基準も、もう少しわかりやすく示していただきたいと思います。

久会長

事務局の方で何かコメントはありますか。

事務局

事務局の方でもそう考えていた部分がありますが、このあたりはしっかりと説明しないといけないと思っていました。予定通りというのは、流れの中で 5 年間に向けて 1 年目だったらこれぐらいは進むだろうという結果が出ているのは B になります。C はそこまでいかない、少しだけしか成果を得られていないという違いをつけさせていただきたいと思っておりましたが、ご意見も踏まえてもう少し単純に評価を分けていくかどうかを考えていきたいと思います。

久会長

第 1 期で内閣府から示されたマニュアル的なものでは、KPI のたとえば 8 割以上達成できているかどうかとか、6 割以上達成できているかどうかなど、数値的にぶれないような基準のようなものが示され

ていたときがありました。ただし、その KPI だけをみて自動的に評価できるなら、先ほど飯田委員がご指摘されたように委員が入る余地がないという話になったので、第 2 期になったときに、より総合的に評価をするときに自己評価と第三者評価を併せて評価していこうという仕組みになりました。その際に我々の評価基準とぶれないようお願いしたいということだと思いますので、よろしくをお願いします。

生駒市の方では総合戦略だけの有識者会議があるので、そこで議論しながら調整していきますと、極端に外れてしまう評価も出てくるので、そこを他の委員の評価を見ながら微修正をかけて進めていきますので、最終的に他の委員の評価を見ながら厳しすぎるだとか甘すぎるだとか、微修正ができるようなかたちでフィードバックができるようにすることも一つの手段かと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

佐伯委員

中間評価の時に、この KPI では評価できないと気付いた場合に、軌道修正の余地があるのかが気になる点です。例えば、審議会の意見としてこの KPI では評価できないであるとか、こういったものを KPI として取り入れるべきであるということ意見を意見した場合に、今後の評価として、その KPI を追加していただける余地があるのかについて気になっています。

久会長

生駒市でも同じようなことが既にありまして、KPI そのものを動かすということが難しい場合には、サブ指標という形で補足の指標を用意していただいて、その指標も併せて追いかけていく作業をしています。おそらく橿原市でもそうなるかと思いますが、事務局はそれでよろしいでしょうか。

事務局

KPI 自体を新たに設定するという事は考えておらず、佐伯委員がおっしゃったように、事業を進めて数年たって KPI の設定自体がずれている、あるいは適切ではないということが出てくるかもしれません。総合戦略が長期的視点であるため、5 年ごとに改正していくと思います。そのときには KPI の設定の仕方も洗練していきたいとは思いますが、現在どのようにしていくかは、ご意見をいただいた中で改めて報告書等でサブ指標のような表記ができるかどうかを検討していきたいと考えます。

佐伯委員

わかりました。あと抽象的な評価については市民アンケートでということですが、これについてはどういった情報を見ていただいたうえで回答していただくのでしょうか。我々が評価する場合は、先ほどお示しいただいたようなこの報告書のサンプルにあるような主な取組みの内容をお聞きしてから回答することでしたが、一般市民の方は実感だけで回答するのでしょうか、それとも何らかの程度の情報提供の後に回答していただくのでしょうか。

事務局

市民アンケートを令和 5 年と 7 年に実施し、市民アンケートから指標を結果として引っ張ってくることを考えております。

久会長

佐伯委員がおっしゃっていることはそういったことではなくて、より客観的な評価に近づけようとする

と、何らかのデータを示した上でそれを読み込んだ後にアンケートに答えていただくという方法もあるが、そういうことをするのでしょうかということです。あるいはアンケートの項目だけを見て実感・直観だけで答えていただくのかということかと思えます。そのあたりについていかがでしょうか。

事務局

市民アンケートの手法については白紙の状態です。データを見ていただいて市民アンケートをとるのか、それとも大きく投げかけるかたちでお答えいただくのかということと、あとはそのアンケートの対象についても検討していかなければいけないところです。審議会の中で特に佐伯委員のほうからご意見をいただいておりますので検討しながらアンケートを進めていきたいと考えております。

久会長

佐伯委員は分野的にもデータで読み取っていかれる分野なので、ぜひともそのあたりのお知恵をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

事務局

最後に補足いたします。行政評価の設定にあたって生駒市の方に視察に伺いました。生駒市は特殊なアンケートをされていたので、そのあたりも佐伯委員にもお知恵をお借りできればと思いますのでよろしくお願いします。

久会長

具体的にどう特殊かというのを皆さんに共有していただければと思います。

事務局

生駒市の方では、事前に市民がどういった層かを振り分ける質問をされています。積極的にまちづくりに関わっていく層かそうでないかを振り分けをされた上で、その方がどういった回答されているかを分析されています。担当された方はかなり勉強されたそうなので、そのあたりも勉強していきたいと考えています。

久会長

このあたりは専門的な話になって難しい部分もあり、私も一緒に組み立てさせていただきましたが、属性を分けていくやり方を工夫したということですね。今までは性別や年齢で属性別に分析していきましたが、それでは良い答えが出てこないだろうということで、価値観やライフスタイルなどの項目を15項目ほど設定し、どのような価値観をお持ちか、どのようなライフスタイルをとられているかという設問項目を用意しました。それをクラスター分析し、5つくらいのクラスターに分けました。その中でどういう層が出てくるかという、まちづくりに対して非常に積極的に関わり、自分たちの課題は自分たちで解決しようとするグループと、全部行政任せにするというグループが出てきます。その方々が他の項目に対してどのような答え方をするのかという傾向を見て、その価値観・ライフスタイルが答え方にどういう影響を及ぼしていくのかということをアンケート設計の中に組み込みました。そうすると、どのような層にどう働きかければどう動いてくださるのかというような、市役所の働きかけの戦略も見え始めてきました。佐伯委員はじめ、学識経験者の方々の中にはアンケート分析をされているご経験もあろうかと思えますので、是非ともそのあたりはアドバイスをご提供いただきながら、よりよいアンケートの設計にしたいと思っております。

ます。

検証に関して他に何かございますか。

清水委員

数値目標や KPI を達成している場合はよいですが、もし達成していないというときには、具体的な取組について、「この部分をもう少し頑張ればできるから頑張ってください」というのと「これをやってもあまり効果がなさそうなので辞めた方がよいのではないのでしょうか」、という 2 通りで考えてしまうかと思います。こういった場合はこの評価の A から E のどれに該当するのでしょうか。

事務局

事業自体を継続するほうがよいのか、取りやめしたほうがよいのではないのか、というのは個別の事業をするかしないかというご意見になってしまうかと思います。そうではなく、事業の成果が得られていないので効果としては現れないのではないのか、だからこの事業を継続するならある程度違う取組みであったり、現在の情勢を考えるとふさわしくないのではないのか、などといったご意見にさせていただけるとありがたいです。個別具体的にするかしないかというよりは、事業自体に効果があるのか、それとも別の手法、何か次につながるような案ということでも構いませんので、ご意見などいただければありがたいと思っております。

清水委員

今の部分はよくわかりましたが、これは A から E のどこに入れればよいのでしょうか。つまり一生懸命やっていて具体的な取組としては非常に進んでいるが、数値目標と KPI があまり進んでいないという場合はやはり E となるのでしょうか。

久会長

頑張っているけど成果がなかったら効果なしということでよいのではないのでしょうか。

清水委員

そのように割り切って考えて進めようということでしたら私も賛成です。

久会長

どう評価したかを意見として書いていただいたらよいのではと思います。豊中市ではここ数年同じように施策評価をさせていただいています。毎年職員向けの研修会をしており、それを 5 月に樫原市でも行いますが、どうしてもさぼっているじゃないかとか、汗をかいていないと思われるのが嫌で実施していることばかり出てきます。これをやっています、あれをやっていますということをいつも書いています。しかし、誰もさぼっているなどとは思っていないし、皆さん真面目に事業をされているということは認識しています。しかし、今回やりたい評価は、それがちゃんと成果につながっているのかどうかということの評価をしませんか、ということです。行政組織はそこを今まできちんと追いかけていなかったのではないかと思います。頑張りましたということばかりがアピールされていて、成果として出ているのかどうかというところは追いかけていなかったのではないかと、それをしっかりと常に追いかけていきたいと思います。せっかくお金や時間をかけてする事業なのだから、成果につなげていくための意識や工夫というのをしていきたいと思います。そのために、はっきりと成果が出ているかどうかというところで評価をお互いにしま

しょうということをお願いしています。ですので、豊中の場合は ABC の 3 段階評価ですが、C を堂々とつけてください、C をつけているから怒ったり責めたりはしませんよと伝えてあります。その C をいかに B、A につなげられるかという、PDCA のサイクルが回るかどうかというところを評価しませんかというお願いをしています。

大学の先生方もいらっしゃいますが、大学評価も同じことを求められていて、大学の場合は学生の能力が向上するということが成果になりますが、そこはこれまであまり追いかけていませんでした。先生がどれだけ頑張っているかというところばかりが強調されていて、先生の創意工夫がちゃんと学生の能力向上につながっているかどうかの評価が今まで十分されていませんでした。そこを大学でも、最終的には学生の能力向上というところが達成できているかを評価しましょうというところに改めています。それと同じだと思います。

私はいつも職員の研修会の時に子育てを例として取り上げており、もし自分の子供がテストで悪い点数を取ってきたときにどう親として接しますか、ということで、責めてしまうと子供は委縮します。そうではなく、今回は仕方がないけれども何が原因で悪い点になってしまったのかということをお聞きかして、次にどうするかを考えさせるほうがよいと思います。時間をかけてないのなら、まずは時間をかけてください。しかし時間をかけても成績が悪かったということはやり方が悪かったということなので、やり方までメスを入れて質的向上を図らなければ、次も頑張ったけれども点数をとれないという話になるので、そこは親御さんとしてもアドバイスしていかないといけない。

それと同じことを今回、行政の事業や施策でやっていこうということなので、点数が悪いということをお責めるのではなく、その悪かった原因がちゃんと究明されていて、次は成果が出るように頑張れるように組み立てられているかどうかを私たちも見させていただきたく思います。それが回っていなければ回っていないという指摘をさせていただいたり、あるいはアドバイスとしてこのようにすればより成果が出てくるのではないのでしょうかというようなコメントや意見をいただくようにすれば、私たちも一緒に、より良いものにするのでないかと期待しています。

先ほどの清水委員のご指摘でいうと、成果は出ていないと思われているのであれば遠慮せずに低い評価をつけていただくべきだと思っております。

土井委員

総合戦略は効果検証ということでシートにて評価するということですが、総合計画については市役所の中で自己評価されたことについて審議会であくまでも議論するとは書かれていません。しかし、実際には進行管理するというので、審議会では部会でヒアリングすると書いていますが、第 11 回の総合政策審議会で進行管理報告書という答申を作ることとなっていますが、それが具体的にどのようなものか分かりません。

それから、施策評価シートで施策分野の進捗度を 4 段階で評価するという話があったと思いますが、それも具体的にどのような形にされるのでしょうか。

最後に審議会としては、資料 3 の右下であくまでも評価するのではなくて提言をするという形になると思いますが、これを部会でまとめて何か自己評価に対して提案していくのか、こうすればいいというような助言をするのか、そういうことを想定されているのか、そのあたりが分からなかったので教えていただきたいと思っております。

事務局

総合政策審議会でしていただくことですが、まず評価していただくわけではなく、この施策分野の評価について庁内で自己評価をいたします。先ほど久会長からご説明があったとおり、ちゃんと評価ができていのかどうか、自己評価がちゃんとできているのかどうかというところをご審議していただきます。施策分野の進捗度が 4 段階ということをご説明いたしましたが、その 4 段階評価を仮に ABCD とすると CD の評価がちゃんと自分でできているのかというところを議論していただきたいと考えています。

資料右下の提言のところについては、土井委員がおっしゃったとおり、その評価に対してちゃんとできているのかどうかも含めた具体的な事業を言っていただいても結構ですし、審議会の中で出てきた

ご意見や、評価に対する内容について記載することを考えております。

久会長

これも生駒市や豊中市で先行して私がさせていただいていることですが、その施策の内容を我々は評価をするのではなくて、シートが全体として PDCA が回っているのかというところを評価させていただく。いわゆるメタ評価と言いますが、上から全体を見通したサイクルが回っているかどうかを評価させていただきます。きちんと書けていない、PDCA が回っていないということであれば、審議会、部会の中で議論していただいて、例えば課題として書いてあるけれどもその改善策が十分書かれていませんね、などのコメントをお返しいただき、より PDCA のサイクルが回るような提言をさせていただきます。

事務局

冊子のイメージを補足いたします。資料 3 の総合戦略の効果検証の報告書のような表がついて、その次のところにこの冊子の説明をいたします。そのあとはこの 27 個の施策分野についてのこのシートが並んでいく。それぞれが表見開きの冊子のようなイメージになります。

久会長

冒頭に飯田委員からもご指摘いただいた話がよくコメントとして出てきますが、評価をしているがエビデンスが分からない、ということがあります。それはきちんとエビデンスを示してくださいと、データや評価の理由を次年度の評価シートの中には収めてくださいとお願いをすることもあります。

それから先ほどの ABC 評価ということで言いますと、行政の職員が評価をすると 8 割方 B になってしまいます。9 割方と言ってもいいです。その場合は、「なぜ B なのかが明快でない」とお返ししています。A をつけるのはおこがましい、だから B だという形でつけてしまいます。しかし実はそうではなく、何か足りないから B になっているのであって、何を埋め合わせたら A になるのかということが評価の中で書かれているべきです。ほぼ達成できているが、この点はまだ課題として残っているので A ではなく B としました、というように明快な B という理由があります。B にするならば何が足りなかったのか、それに対してどう埋め合わせていくのかというものを書いていただくと、より引き締まった評価になると思います。

今回は担当の方も最初の評価なので、PDCA がちゃんと回っていないというシートが出てくると思います。まずはそこを第三者評価ということで、第三者的に読んでいただいて、ここがよくわかりませんかとか、こことここがつながっていませんなどを部会の中で議論をして、総会で全部まとめていきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。

佐伯委員

評価方法について以前議論があったときもコメントをいたしました。KPI とか評価方法など、主観的な評価項目と客観的な評価項目を入れるべきだとお話しています。その理由は、例えば健康指標、ある病気の死亡率は下がっていたとしても市民アンケートで皆さんが感じられる安心感が変わっていません。そのときに行政施策としてはどう評価するのかというときに、これは客観的には効果が出ているということを市民の方にお伝えするところに不足があったということで、そこを頑張りましょうとなるでしょう。反対に客観指標は悪くなっているけれども、主観的指標として不安感は上がっていないときには、それで良いわけではなく客観指標を改善するべきだと考えます。私は両方必要だと思っております。市民アンケートをするべきだとは理解しますが、それに対応する客観指標は豊富に出していただきたいと思っております。それが KPI に含まれていても結構です。事業の取組の内容の各数値が出ていても結構ですけれども、是非そこは両方がバランスをとって理解できるような資料を作成していただければ、我々もそれに対して適切な評価ができるかと感じておりますのでよろしくお願ひしたいと

思います。

久会長

実は今の目指す姿というものは、かなり抽象度が高い書き方をされていると思っています。資料3にあります施策シートは施策の目標としての目指す姿から始まりますが、ここの抽象度が高いゆえにしつかりと追っていただかないといけないと思っています。

佐伯委員のお話とつなげると、この目指す姿に KPI として持ってきているのがほとんど市民の割合であり、いわゆる主観的評価ばかりが並んでいます。これだけを追いかけていってもらおうと困るという同じ思いをされていて、ちゃんと客観的にそれぞれの指標が測れていないと佐伯委員のお話のようにちょっと違った評価になってしまうだろうと思います。今回総合計画を作った段階では、おそらくめざす姿が柱となって評価をするというところの実感が湧いていなかったのだろうと私は思っています。改めてこの目指す姿をどのように客観的な指標も使いながら、成果が出ているかということをチェックしていく習慣づけもしていただきたいと思っています。そういう意味では、サブの指標が当然それぞれの施策のところに出てきてしかるべきだろうと思っています。

ひとつ具体的に言いますと、総合政策の冊子でいえば最初の保育幼児教育のところでは、目指す姿に「子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。」ということが書かれています。これは大きく2つのことを書いていますよね。まず自分の個性や能力を伸ばすということと、夢と希望を描くという2つのことが書かれています。その個性や能力を伸ばすということと、客観指標でどうやって測るのか、あるいは夢と希望を描いていますというのをどういう指標で測っていくのか。ここを具体化していけないと、目指す姿がどれだけ達成できたのかということとをきちんと評価できないだろうと思います。全ての施策が今回改めてその成果指標と結び付けていけないといけないと思っていますので、そこを担当課の方はどうに記述をされてくるのか、我々が見たときにそれで十分かどうかという議論を是非とも部会、総会でさせていただければ、今回は十分ではないかもしれないけれども、来年度以降はより充実した評価ができるようになっていくだろうと思いますので、是非色々なコメント・ご提言をいただきたいと思っています。

久会長

今日は具体的な記述がなかったので枠組みだけの抽象的な話になってしまった部分をご容赦いただきたいと思いますが、次回は具体的な中身も出てくると思いますのでそこで部会へもっていくための議論を詰めていきたいと思っています。

部会のほうについてご異論はございませんでしょうか。ないようでしたらご提案いただいた部会構成で進めてまいりたいと思います。特に部会長を引き受けていただいた委員の皆様にはご負担をかけることになるかと思いますがぜひともご協力をよろしくお願い致します。

令和4年度行政評価スケジュールについて

事務局

(資料説明)

久会長

ただいまスケジュールの説明をしていただきましたが、何かご質問・ご意見はございますか。

(なし)

よろしいでしょうか。それでは日程調整していただいて、決まり次第早急に教えていただければと思います。

5. 閉会

久会長

予定をしておりました案件はこれで全て終了しました。振り返ってでも結構ですし、その他でも何か委員の皆様からございますか。

(なし)

よろしいでしょうか。それではこれで議事の方は全て終了いたします。議事進行にご協力いただきましてありがとうございました。それでは進行を事務局にお返ししますのでよろしくお願いいたします。

事務局

以上で予定していた案件は全て終了しました。皆様長時間にわたりご審議、また貴重なご意見を賜りありがとうございました。来年度からの総合計画の進行管理および総合戦略の効果検証について本日もご議論いただいた内容で修正を加えて進行してまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。本日の会議は初めてのオンライン開催というところもあり、ご不便をおかけしたこともあるかと思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。

来年度の審議会は、令和4年の6月下旬、部会の方は7月中旬の開催を予定しております。場所は大和信用金庫八木支店を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらオンライン開催も検討してまいります。日程調整は、決定次第速やかにご連絡いたします。皆様のご出席、ご審議を今後ともよろしくお願いいたします。

それではこれで本日の総合政策審議会を閉会します。皆様、ありがとうございました。

(以上)